

## 和泉自治会

### 1、基本データ

- 地区名 和泉地区
- 地区人口 513（平成28年1月1日現在）
- 面積 332平方キロメートル
- 地区の沿革

和泉地区（旧和泉村）は、福井県の東端に位置し岐阜県に境を接し、面積332平方キロメートルの約9割が山林であり、四囲山岳を形成し、その中央を岐阜県境に源を発する九頭竜川が東西に貫流している。また九頭竜川をせきとめた九頭竜ダムを始め、大小複数の人造湖を形成している。

昭和31年9月30日に下穴馬村と上穴馬村が合併して和泉村となり、さらに昭和34年10月14日に石徹白村の一部を編入した。そして平成の大合併により平成17年11月7日に大野市と合併し現在に至っている。

合併時には人口729人であったが、現在は513人と減少した。しかい、近年は減少数が1ケタにとどまり、大きく減少していない状況である。

旧和泉村では地域の特性を生かしたむらづくりの理念のもと観光と農林水産等地域産業の連携による内発的地域振興を目指してきた。特に観光は「観光立村」を掲げ、多くの観光施設の整備を行ってきた。

また、九頭竜国民休養地を会場に10月に行われる「九頭竜紅葉まつり」、5月に行われる「九頭竜新緑まつり」は、県内でも有数のイベントとして定着し、今年度も多くの来場者が訪れている。

交通網も岐阜県側で国道158号線に繋がる東海北陸自動車道が整備された。和泉地区は中京方面からの玄関口として、大野市、さらには福井県にとっても最重要な地域であり、近い将来中部縦貫自動車道の開通に伴うインターチェンジの完成などにより交通の拠点になると考えられる。

- 実施主体 和泉自治会

それぞれの事業は自治会及び自治会に所属する団体が主体となって実施した。

### 2、現状と課題



< 九頭竜ダム湖 >

和泉地区は、合併後の10年間に人口が減少しており、729人（平成17年11月）から513人（平成28年1月）△216人（△29%）となっている。さらに大野市街地から約30kmの距離があり、行政サービス低下への懸念や若者の流出により高齢化が進み、地域力・マンパワー不足による地域の衰退、経済情勢の悪化による観光客の減少など、当地区の将来への不安が増大している。

合併前は小さな自治体であり、行政に強く依存している状況であったといえる。合併を機に少しずつではあるが依存体質から

脱却し、自分たちで地区の課題を踏まえて、将来について考え、行動を起こし始めてところである。



< 九頭竜紅葉まつり >

### 3、事業内容

平成27年度は、和泉花木の里事業、地域づくり計画活動事業の2事業を実施した。

#### 1 和泉花木の里事業

##### ① 越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト（花桃育成管理）

主体：越前おおの・九頭竜花桃回廊実行委員会

##### ② 道端花いっぱい運動

主体：和泉自治会

#### 2 地域づくり計画活動事業

主体：和泉自治会

#### 1 和泉花木の里事業

##### ①越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト

平成21年11月、和泉自治会の賛同を得て、民間企業と地元住民による自主事業団体「越前おおの・九頭竜花桃回廊実行委員会」が、この地域に花桃の植樹・育成事業を図ることにより、観光拠点としての地

域づくりに寄与することを目的に発足した。

平成22年4月には長野県上伊那郡阿智村へ視察研修を実施し、平成22年から24年の3ケ年で1500本の植樹を行い、管理を行っている。自治会も実行委員会の目的に賛同し共通

認識をもち、実施主体である実行委員会の事業推進に協力している。

##### ②道端花いっぱい運動

越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクトにあわせて、地域を花でいっぱいにするを目的に実施した。各世帯や事業所にプランターを貸出し、普段の生活で行き来する家の前の道端脇に花を咲かせることで、集落内の美化と癒しにつなげる。



< 「平成の湯」周辺の花桃 >

#### 2 地域づくり計画活動事業

平成26年4月に地区民が「ここに生き続けられるために」の想いをもち「和泉地区地域づくり計画」を作成した。その計画に基づき計画活動を実践していくために3つのチームで調査や検討会などの活動を実施している。地域資源を生かして、結の精神によって自立した地域を目指していく。



< 和泉地域づくり会議 >



< 和泉地域づくり計画 >

#### 4、事業の成果

##### ① ①越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト

###### (1) 花桃の植樹

初年度の平成22年は2日間にわたり、同地区の九頭竜保養の里、九頭竜国民休養地、道の駅九頭竜周辺に約460本の「花桃の苗木」を植樹し、県内外より約1,000人の参加者が集まった。また和泉地区全体で花桃を楽しんで回れるような地域を目指し、前坂地区、下半原地区、大納地区などへも10本前後の植樹を行った。

2年目の平成23年は和泉前坂家族旅行村において植樹イベントを開催し、297

名が参加し、約350本の苗木の植樹を行った。このイベントでの植樹のほか、実行委員会で川合地区、角野地区、大納地区などへ約150本の植樹を行った。

3年目の平成24年は九頭竜国民休養地をメイン会場とし、下半原地区と前坂地区にも植樹を行った。256名が参加し370本の植樹を行った。このほか大納地区、下山地区で130本の植樹も行い、3ヵ年で1500本の植樹が終了した。

平成26年は板倉地区の国道158号線沿いに、50本の植樹を行った。

また、植樹した苗木が立ち枯れ等により消滅するものもあり、毎年100本程度の補植をしている。

植樹した苗木の枝か添え木には自分が植樹した木が分かるようにナンバープレートがついている。ここに自分の植えた花桃があるということから、再びこの地を訪れてみようと思う気持ちが生まれ、少しずつ愛着もわいてくるのではないだろうか。

実際に、植樹の後もその場所を訪れ、自分の植えた苗木の周りの草刈をする人や、和泉地区の新緑まつりや紅葉まつりに訪れた人が自分の植えた花桃を見て帰ることもあった。



< 植樹風景 >

## (2) 花桃の育成管理



< 雪囲い撤去作業 >

植樹後の育成管理も非常に大切であり、4年目の25年度以降は、春には約1500本の苗木の雪囲い撤去、秋には雪対策としての雪囲い、また消毒や除草剤、肥料散布などの作業を行った。実行委員会のメンバーやボランティアを募集するなどして随時行っている。



< 追肥作業 >

雪解け後の4月18日には、3ヵ年かけ植樹し、昨秋に雪囲いをした花桃の雪囲いの取り外し作業を行った。85名の参加があり豪雪にも負けず無事冬を越せた苗木に一安心し、更なる成長を願い追肥も行った。

そして10月18日には62名の協力を得て、来たる冬の雪に備え苗木が雪で折れないよう雪囲い作業を行った。参加者らは

専門家の指導を仰ぎ、竹と荒縄を使って雪囲いを設置した。今回で6年目ということで、皆手際よく作業を進められていたが、特に荒縄で枝を束ねて縛る際の結び方である「男結び」を初めての参加者や子どもは教わりながら作業を行った。本数が多くかなり大変ではあったが、参加者らは一本も雪に負けて折れたりしないよう丁寧に作業を行い、将来この地域が花桃でいっぱいになり、多く方がこの地を訪れてもらえることに思いをはせていた。



作業のあとの交流会は、楽器演奏やビンゴ大会などで楽しい時間を過ごし、また和泉の食材を生かした昼食も堪能した。しし汁、しし肉ソーセージ、まいたけの天ぷら、山菜料理など、参加者らは心地よい自然に触れながら併せて和泉の食材の魅力を存分に満喫していた。



作業後の交流会の様子(春)



作業後の交流会の様子(秋)

参加者らはこのイベントを通して和泉地区に対する思いを深め、強く心に残る1日になったのではないか。これにより当地区の魅力が地区外にも発信され、大野市の新たな観光地の創造に手ごたえを感じた。

これらの作業を行うにあたっては、実行委員会のメンバーだけでは実施が困難であり、またこの管理を通じて地域の活性化に繋がっていくことを期待し、ボランティアの花桃管理グループ「花桃ガーディアンズ」を募集して行っている。和泉地区の住民だけでなく、地区外より多くのボランティアを募集することで、多くの方に和泉地区を知ってもらい愛着を生む。さらに地元住民と触れ合う機会を創出することが大切であると考えた。

実際ボランティアには和泉地区以外の参加者が多く、事業を通して交流が生まれていた。

これを機に地元住民の交友範囲も広がり、さらに外部の情報を得ることや地域外の人々の意見を聞く事で、今後の地域の発展また地域住民の意識改革に繋がっていくのではないかと感じとれた。

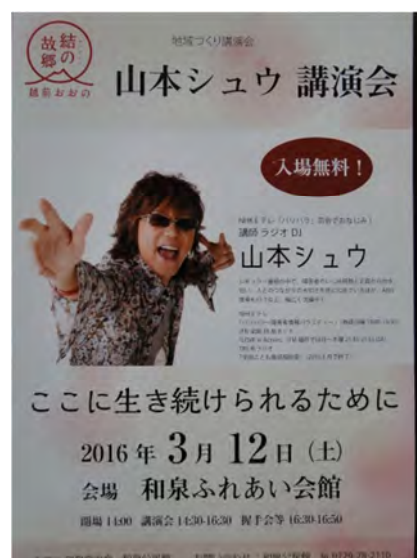
## 1 ①道端花いっぱい運動

平成25・26年度の2年間で希望する一般世帯と事業所、施設にプランターの貸出しを行った。今年度は今までに貸し出したプランターを利用し、昨年に引き続き道端を花でいっぱいにして、通勤・通学者など行き来する人に癒しを与えて、地域一体となった花運動が進むよう役割を果たしている。

## 2 地域づくり計画活動事業

### (1) 講演会の開催

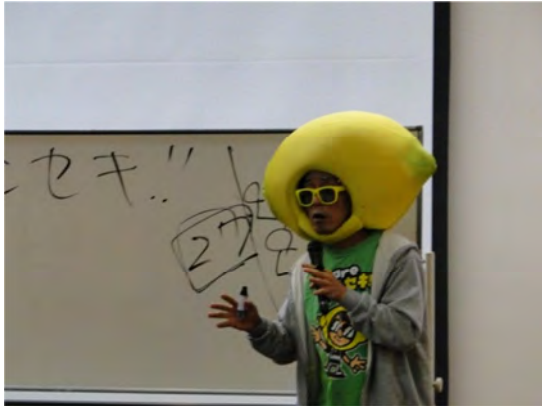
住民ひとりひとりが愛郷心を持って地域づくりに参加し、お互いが思いを伝えながら、住民が一体となって地区を支えていく、変えていくおもしろさを再確認



するため地域づくり講演会を行った。

講演会には、地区住民65名が参加した。講師にラジオDJの山本シュウさんを招き、驚きの演出や楽しいトークで大いに盛り上がった。おせっかいなおばちゃんがいればコミュニケーションが生まれる。コミュニケーションがあれば地域の輪が生まれる。自分がおせっかいなおばちゃんならなければならないなど、地域づくりのヒントとなる話が多くあった。参加した住民が今後の地域づくりに参加する意欲と、みんなで地域を盛り上げていくことの大切さや楽しさを感じとってくれたことと思う。





< 地域づくり講演会の様子 >



(2) 各チーム活動

「人・伝統チーム」では、地区の伝統文化の継承に主に取り組んでいる。昨年度から、春に咲く花桃をはじめ紅葉など和泉地区ならではの風景、伝えていき

い文化行事、年間を通じて行われる行事等を記録に残し、誰もが閲覧できるライブラリー作りに取り組んでいる。

この活動を通し、文化の伝承と地区の連帯感、愛郷心が強まっていくのではないかと感じられた。



< 人・伝統チーム・・・各種行事等の記録の一部 >

「産業チーム」では、地区の山々にある未利用資源を活用し、地域ビジネスの創生に取り組んでいる。また、休耕田を活用した山菜の試験栽培や私有山林の山菜採取禁止を模索し、看板設置などを試みた。



< 産業チーム・・・看板設置 >

今年度から山菜や特産品を使った六次化商品の開発等に取り組むこととし、6月に山菜ビジネス勉強会を2日間開催し、延べ50名が参加した。この事業を通して、産業面からの地区の活性化につながっていくものと思われる。



< 産業チーム・・・山菜ビジネス勉強会 >



< 生活チーム・・・地区電話帳 >

「生活チーム」では、健やかで安心した生活を目指した取り組みを行っている。昨年度作成した電話帳の区長名簿等の変更や、さらに高齢者が見やすい電話帳の作成に取り組んだ。

また、買い物対策、空き家情報、健康づくりなど住民の日常生活の課題を見つけ出し、解決方法に向けての活動を行っている。今後も高齢者等が住みやすい地域づくりを

目指していくものである。



< 生活チーム・・・ラジオ体操の推進 >



## 5、今後の展望

今年度実施した2つの事業は、「和泉地区地域づくり計画」にそった和泉地区の将来を決める重要な活動である。「ここに住み続けられるために」を基本的な考え・共通の思いとして策定し、自ら考え、行動する自立した地域を目指していくものである。今年度には3つの推進チームは和泉自治会組織の中に位置付けをし、今後具体的な活動計画策定と、今までに引き続き実施できるものについては順次行動に移している状況である。

また、6年前から動き出している越前おの・九頭竜花桃回廊プロジェクトは、地区内外の多くの人の協力を得ながら進めて

おり、地区住民が自発的に行動する見本となるものがある。

この事業が行政に頼らず自主的に地域づくりに携わっていくという意識改革への転機になり、その結果、地域にリーダーを育て、人と人との繋がりや集い、結束力を高め、地域を牽引する大きな力へと変わっていく。すなわち地域力・市民力が向上していくものと確信している。結の故郷づくり交付金を有効活用してさらに地域づくりを推進していきたい。